

1945—1953

【昭和20年～昭和28年】

大空襲、そして復興へ

空襲による壊滅的な状況から立ち上がった平塚市

city
hiratsuka
kanagawa

70th Anniversary

のどかなまちの姿が一夜にして奪われてしまった。
昭和20年（1945年）7月16日…平塚大空襲。
市街地の戸数の約7割を焼失したこの悲しみから
一日も早くまちを復興させようと人々は願いました。

1945年 DATA ●人口39,165人 ●世帯数8,698世帯 ●面積10.87km² ●人口密度3,603人/km²
[11月1日現在]

空襲後の平塚市内◎昭和20年（1945年）、空襲直後の平塚市内。
電信柱だけが目立つ焼け野原が広がっていました。この写真は明石町
付近から平塚駅を右に望んだものです。中央の2階建ての建物は、横
浜興信銀行平塚支店（現MNLビル付近）です。（米国立公文書館蔵）



忘れられない日
からの始まり

平塚市には、忘れることのできない悲しい日
があります。昭和二十年（一九四五年）七月十
六日。海軍火薬廠をはじめとする軍需工場が
立ち並んだこのまちが、大規模な空襲を受け
てしまった日です。

その夜、B 29爆撃機百三十二機から投下さ
れた焼夷弾は、「シャー」という音をたてながら、
まるで集中豪雨のように降り注ぎ、まちを火
の海に変えていきました。投下された焼夷弾
の量は約二千二百トン。空襲は、翌十七日未明
まで続き、市街地の約七割が焦土と化しました。
県警調べによると、死者二百二十七人、負傷者
二百六十八人。平塚市は壊滅的な被害を受け
ました。そして、終戦が告げられたのは、この
空襲からわずか一か月後の八月十五日でした。

しかし、この悲しみを抱えながらも人々は
復興への意欲を奮い立たせます。まちも駅北
口を商業地域、海岸方面一帯を住居地域、相
模川流域の一部を工業地域とする土地利用
計画を着々と実行に移していきます。そして、
一応の復興の目途がついた昭和二十五年（一九
五〇年）七月には、現在の七夕まつりの前身に
あたる「復興まつり」が盛大に開かれました。

わたしたちは、平塚市の今日の豊かな暮ら
しの原点に空襲による大きな犠牲と、そこか
ら立ち上がった人々の力があることを忘れては
なりません。

●平塚市の主な出来事【1945～1953】

- 昭和20年(1945年) 7月16日、平塚大空襲。市域の戸数の7割を焼失
- 昭和21年(1946年) 平塚復興事業所が開設。市の行政区割を廃止
- 昭和22年(1947年) 平塚商工会議所が設立。新制中学校創立
- 昭和23年(1948年) 自治体警察平塚市大野町組合警察が発足。消防署を設置
- 昭和24年(1949年) 学校復興定礎記念式典開催。平塚魚市場と平塚漁業組合が設立
- 昭和25年(1950年) 平塚復興まつりを開催
- 昭和26年(1951年) 第1回七夕まつりを開催。須賀漁港完成
- 昭和27年(1952年) 市制20周年で市歌制定。最初の市営住宅を龍城ヶ丘に建設
- 昭和28年(1953年) 平塚公共職業安定所が新築落成



学校復興定礎記念式典◎各学校の校地や学区が確定したのを受け、昭和24年(1949年)5月24日、見附台公園に市内の小・中・高校の全生徒が集合し、式典が開かれました。生徒たちは、交付された校旗や礎石を自分たちの学校へと運びました。



須賀漁港が完成
◎昭和26年(1951年)、それまでの自然湊を修築し、小漁船約100隻がつかげる漁港が完成。淡水漁港なので船に貝がつかないなどの利点があり、評判になりました。



復興まつり◎昭和25年(1950年)7月、復興まつりが開かれました。田植えが一段落した時期と重なり、近隣農村だけでなく、秦野や伊勢原からも人が集まり、商店はかつてないほどのにぎわいを見せました。このまつりを機に、翌年から「平塚七夕まつり」が始まりました。【上】期間中の東海道のまちなみ【下】会場となった見附台公園のにぎわい



市制20周年祝賀◎昭和27年(1952年)、過去を振り返り、将来を祝福して市制20周年を祝う行事が開かれました。市庁舎前(現市営錦町駐車場付近)には、小学生の旗行列もできました。

「がき大将に教えられ、相模川を泳いだんですよ」

生まれてからずっと馬入に住んでいます。小さいころは近所の子もたちと一緒に家の近くで遊んだり、相模川で泳いだりすることが多かったですね。がき大将がいて下級生に泳ぎを教えるのでほとんどの子どもが泳げました。年齢の違う子どもたちと遊んでいると、自然といろんなことを学んでいくんですね。あのころは、まだ川もきれいでアユやコイ、ウナギなどもとれました。茅ヶ崎の柳島まで泳いで、ハマグリをとりに行ったこともあるんですよ。

それから、野球チームをつくって日が暮れるまで遊んだのも思い出です。今でも当時の仲間とは時々会って、懐かしい話をしていますよ。

今の馬入の風景は、お花畑ができて昔とはだい

ぶ変わりました。昔は、葎あしがいっぱい生え、ごみがたくさん捨てられていたので掃除も大変でしたからね。花が一面に咲いているのを見ると、地元に住んでいるわたしたちもその変わりように驚くほどです。

子どものころは、戦争の傷跡が残っていて、生活に必要なものを調達するのも困難なくらい、みんな暮らし向きも貧しかったんです。しかし、そのつらいときがあったからこそ、人々が結集し、復興に向かう原動力となり、区画整理が進んで道路がしっかりと整備されたまちができたのだと思います。公共施設なども充実して、住みよいまちになりました。これからは、高齢者が増えてくるので、老人にもやさしいまちであってほしいですね。



1945年生まれ
杉山繁夫さんの
ひらつか話